

葉梨法相辞任 首相の判断信頼揺らぐ

人の命を奪う究極の刑罰を、
ウケ狙いの輕口に使う。法相にしての適格性を欠くことは明
かで、辞任は当然だ。

がある死刑について、法務省は従来「慎重、厳正に臨む」と説明してきた。省のトップの軽々しい言動は、熱行の正統性を根底から揺るがすものだ。

じ、説明責任を果たしてもりこ
たい」と、交代を否認した。
岸田内閣には、政治資金問題
で野党から追及を受け続けてい
る寺田稔総務相らがいる。旧統
一教会との関係をめぐり、山際

の批判が収まらない」と見る。一方で、一転、交代をせむところ右往左往ばかりで、その判断力や指導力への信頼は著しく損なわれた。葉梨康弘法相が昨夕、首相に辞表を提出した。自民党議員のパーティーで、法相は「地味な政治家」、吉田茂の「うるさい政治家」などと評された。

は、「これだけではない。
「日統一教会（世界平和統一家庭連合）の問題に抱きつかれ」「私の顔もこぐらかテレビに出るよつとなりた」とは、被書者救済の先頭に立つべき担当閨僚として、誠実さのかうのを感じられない。「法相になつてもお金は集まらない。票も入らない」という「謙き」に至つては、自身の職務を自ら軽んじる以外の何ものでもない。

物語の圖の書院本会議でも、織田の意図を諒認していた首相は、その後、葉梨氏から辞任の申し出があったので受け入れたと説明した。前日の判断について問われても、「職責

務への直覺もいかがえず、後で撒回して落るものではない。

しかも、同様の事が、ありを、別の会合でも複数回にわたり繰り返していたから、あきれる。多くの国が廃止に向かい、国内にも廃止を求める事

一連の発言が報道されると、自民党内からも進退を問う厳しい声が上がった。しかし、首相は一昨日、葉梨氏を官邸に呼んで、松野博一官房長官から厳重注意させた後、記者団に対し、「職責の重さをしっかりと感

断つて、「職責を自覺し、説明責任を徹底的に果たすよう指示した」と繰り返すばかり。任命権者として自ら責任を引き受けるのではなく、本人任せに終始するのでは、国民の信は取り戻せまい。